

もうすぐイースター、素晴らしい喜びの日がやってきます。『感謝しつつ、主の門に～（詩100：4）』とあるように、私たちは週の初めをいつもそのように迎えなければいけません。私たちが神様の前に出るとき、神様は心を見られます。あなたはいつも感謝して神様の前に出られているでしょうか。また、自らの行いに誤りがなく、正しく歩めているでしょうか。今日は、イエス様が宮清めをされる場面から、私たちの歩む道を語られています。（ルカ19：37-48）（※宮清めに関連する記述はエレミヤ7：11前後にもあり）

イエス様は神殿（祈りの家）に向かう際、バタニヤを通してエルサレムに入られました。バタニヤはラザロの復活の地であり今はラザロの町と呼ばれています。またイエス様が昇天されたのもこの地ではないかと言われています。ほかにもマリア、マルタ姉妹の話や、枯れたいちじくの話などがあり、イエス様にとってバタニヤは特別な場所であったことをうかがわせます。

このバタニヤという地は都エルサレムの城壁の外にあり、悩みの家、貧困の家と呼ばれる場所でした。しかし罪人や病人とためにこの地に來られたイエス様にとってバタニヤは憩いの家だったのです。そしてイエス様はバタニヤを通りエルサレムへ入られます。その当時イスラエルの民は自分たちは豊かだと勘違いし、彼らの願う救世主が現れることを願っていました。このようにしてイスラエルの民は神様に背き続けていたのです。そんなエルサレムの街の様子にイエス様は涙を流され、宮が商売人の物売りの場、強盗の巣となっていた状況を見て、『わたしの家は、祈りの家でなければならない』というみことばのとおり、宮から商売人を追い出し、本来そのようなことをしてはいけないと分かっていたのに行っていたパリサイ人たちを戒めます。

神様はここで、私たちもイスラエルの民のようになっていないか、もう一度考えるようにと語られています。あなたは赦された者として神様に感謝し、みことばを忠実にこなっているでしょうか。もし頭では理解し、心でもわかっているつもりだけに行いができないということがあるならば、心が強盗の巣となっているかもしれません。

あなたの中に「自分はクリスチャンで、自分の心はもうイエス様をお迎えした神殿である。」といいながら、その実、神様を迎えられる状況になっていないことはないでしょうか。物理的に豊かな環境にあっても心が傷んでしまった人たちに神様は「もう一度わたしに目を向けなさい」と言われています。今日のメッセージはクリスチャンに向けて語られています。私たちは目を覚ますと宣言し、新しい地に教会を立て上げることを決めました。これはエルサレムの復活、神殿を建て直そうとしたイスラエルの民と同じことです。私たちはこの地にあって、この地の方法で神殿を立て直そうとしています。私たちの心が神様を礼拝するための神殿を立てたいと強く祈るなら、必ず叶えられます。ですから今、私たちは本当の自分の目的や役割が分かっているか、また自分がどこに憩いを向けているかについて考えなければなりません。

私たちの心がエルサレムとならないために、**1 憩いの回復をしましょう。**あなたはどこに憩いを見出していますか。イスラエルの民は自ら奴隷でないことを喜び、立派な城壁に守られ神様に目を向けていなくても平和で一見豊かに思える状況が憩いだと思っていました。でもそれは違います。もしそのように神様に心を向けず、好きなことや安らげることに心を向けているならば、その安らぎが取られてしまうのではないかと不安に思って新しい地に足を踏み出すことができなくなってしまう。あなたは本当の平和を求めていますか。イエス様が求めた平安は悲しみと貧困のなかにあって、罪人に主の道を教え病人を癒すことでした。それがイエス様にとっての憩いでした。神様は神を見ようとする人たちに心を留め、数々の奇跡をおこなわれます。もしあなたが目に見えるもの、これがあるから頑張れるというものを憩いの全てとしているならば、悔い改めて神様の前に出ることを喜びとし、憩いとしなければいけません。今の環境を壊さないために言うべきことを言わず、行わず、自らのために神様からの正しいことができなくなっていないでしょうか。それではパリサイ人と同じです。あなたはいけないことだと分かっていたけれど本当のことを恐れて正しいことができなくなったパリサイ人のように歩みますか。それともイエス様の友、神様を見て歩むラザロのように歩みますか。それとも全財産を捨てて全てをイエス様に捧げたマリアのように歩みますか。全てはあなた次第であり、これらのことは紙一重です。正しい道はもう一人ひとり分かっています。ですから私たちは先に救われた者として、神様の前に出ることを恐れず出て行きましょう。形に見えるもの、今与えられている環境、楽なほうに目を向けず、あなたの憩いがどこにあるのかももう一度思い起こし歩みましょう。**2 目的の回復をしましょう。**目的を見失うと、私たちは祈ることも悔い改めることもできなくなります。あなたは今どこへ進んでいるかわかっていますか。目的地がわかれば間違ってた道を歩んでも改められます。もし神様の計画を分からず歩んでいるならば、目的を見失って落ち込みます。なぜやっているのかわからなくなり正しいことができなくなるからです。ですから私たちはいつも神様との関係が良好であり、今自分がどんな状況にあるか、あなたの中に人のことを気にして正しいことを保身のため、この世の心遣いのためにできないことがないかどうかを確認しましょう。言にくい人に正しいことを語らないことはイエス様の選んだ道ではありません。死にまで従うと決めた私たちに神様は、どのような時でも恐れず正しい言葉を語るよう言われています。そしてその言葉は神様が全て用意してくださっています。また、皆で戒め高め合うことは私たちにとって喜びです、しかし同じことを言われ続けることは恥としなければいけません。そういう人は早く目的を回復しなければいけません。そして、**3 祈りの家の回復をしなければなりません。**イザ56:4-8で神様が求めたことは、あなただけでなくあなたの周りのまだ神様のことを知らない人々が安息日を守るようになることです。これがすべての祈りの家となる条件です。私たちは自分の目的にたって歩み、使命を果たすと決めました。もし神様と共にいるならばあなたはもう自分を守る言葉やオブラートに包んで傷つかない言葉を語る必要はなく、ただ神様が語れということ語ればよいのです。そのために、あなたと神様の関係、祈りが回復されているか今一度確認しましょう。みんなで共に祈ることも素晴らしいことですが、神様と一对一の祈りはもっと大切です。神様と向き合っているならば、自分に対しても人に対しても何のために祈ればよいかわかります。私たちはただ神様に聞いて祈るだけです。しかし、わからないなら神様との関係が疎かになっているのです。神様は祈る前からその人の願いを知っておられる方です。しかしこの地は悪魔に権限が与えられているため、その人が神様に向かって祈ることではじめて神様はそこに介入できるのです。ですから、あなたと神様との関係が友好であるということはとても大切なことです。大事なことはわずかです。調子のいい時は放っておいて、困った時だけ神様に助けを求める、そんなことをすることなく、いつも神様との交わりを大切に、いつも神様と向き合ひましょう。

イエス様は私たちの罪のために喜んで十字架へ向かう道を選ばれました。そして今、自分のために死んでくださった方のことをまだ知らない人々が滅びから救いを得るために、私たちもイエス様のように命をかけて伝える人生を選びました。それには私たち一人ひとりがイエス様のことをもっと理解しなければいけません。祈りの家を回復させなければいけません。目的にたってイエス様の愛をたとえ迫害の中にあっても伝えることを憩いとしなければいけません。

あなたの思い悩みはすでにイエス様の十字架にかけられました。もうあなたのところに悩みはありません。ですからもう一度十字架にかけたものを手元に戻すようなことや、悩んでいるふりをする事なく、ただイエス様に目を向けましょう。赦されたこと救われたことを喜び、今滅び行く人の痛みを負うことが私たちに与えられている使命です。いつも主に心を向け、真剣に向き合ひていきましょう。そして、イエス様の復活の日を共に喜び、待ち望みましょう。（要約者：金光 瞳）